

## 2. 文学研究科

(1) 文学研究科の教育目的と特徴	.....	2-2
(2) 「教育の水準」の分析	.....	2-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	.....	2-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	.....	2-10
【参考】データ分析集 指標一覧	.....	2-14

## (1) 文学研究科の教育目的と特徴

本研究科においては、人間の諸活動の原理的な解明とその諸活動が有する価値を問い直すことを通じて、行動科学を含む広義の人文学に関わる学術について教授・対話することを根幹の教育理念とする。この理念に基づき、基盤的・先端的な専門知識、新たな知を創造しうる能力を有し、高い倫理性と強い責任感、研究成果を世界に発信できる語学能力を持つとともに、国際的連携のもとで研究を推進する能力、をそれぞれ有する研究者、および高度な専門性を必要とする職業を担いうる人材を育成することを教育の目的とする。

学生は関連分野を含めた高度な専門知識の習得、および原典・一次資料の分析力の向上に努めるとともに、活発な討議を通して問題に対するアプローチの方法、思考能力、討論の能力を身につけることをめざすが、その際には特に以下の五点を重視する。

- (1) 人文学のそれぞれの専門分野において、高度な知識に基づく研究能力と、高度な専門性を必要とする職業に従事するための能力を身につけていること。
- (2) それぞれの専門分野において、原典や一次資料の高度な分析に基づいてオリジナリティの高い研究を進めるとともに、研究の成果と学術的意義を適切に把握する能力を身につけていること。
- (3) 専門家としての責任感と倫理性をもって研究を遂行する能力を身につけていること。
- (4) 研究成果を世界に向けて発信するために必要なレベルの語学能力を身につけているとともに、国際的な連携のもとで研究を推進する能力を身につけていること
- (5) 現在の社会がかかえている様々な問題に関して、人文学の立場から積極的に発言できるだけの知識と発言力を持つとともに、将来の世界像を視野に入れて、人文学がいかなる存在意義を持つのかを自覚的にとらえ、よりよい社会の実現のために意味のある研究を行うための能力を身につけていること。

なお、毎年の修士課程入学者のおよそ半数は他大学出身者であり、ここ数年は六割を超え、そのうち 20 名以上が外国の大学の出身者である。多様な背景を持つ学生が確保されているこの状況は、世界の多様性を認識し、将来国際的な場でも活動しようという意欲が学生に与えられる点で望ましいと考えられる。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### <必須記載項目 1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5202-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目 2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5202-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目 3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 5202-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 なし）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料  
（別添資料 5202-i3-3～5）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学研究科は従来5専攻 31専修体制であったが、時代の変化と学生のニーズに合致させる形で組織再編を進め、ハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センターとの国際共同学位（ジョイント・ディグリー）プログラム「京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻」（2017年6月に文部科学省より設置認可）を2017年10月に開設し、6専攻体制とした。これは、ジョイント・ディグリーとしては人文社会科学の分野において日本初の取り組みである。国際連

## 京都大学文学研究科 教育活動の状況

携文化越境専攻の全ての学生は、京都大学・ハイデルベルク大学の二重学籍を得ることができ、日本・ドイツにそれぞれ一年間在学しながら、修了所要単位 30 単位のうち、京都大学で 15～20 単位、ハイデルベルク大学で 10～15 単位を修得する。両大学の教員による共同指導を受けながら、英語で修士論文を作成する。京都大学文学研究科とハイデルベルク大学がそれぞれの強みを活かし、アジアとヨーロッパにまたがる大学院教育を共同で行うことにより、人文社会系の横断的研究能力と外国語による発信能力を兼ね備え、グローバルな知の場で活躍できる人材の育成をめざすものである。[3.1]

- ・ 別添資料 5202-i3-6 文学研究科国際連携文化越境専攻案内 (2019 年度)
- 文学研究科では、メディアの高速化・グローバル化の著しい現代社会の多様な問題や現象について専門的知見を基礎として考察する必要があるとの認識から組織再編を進め、2018 年度に情報・史料学専修と二十世紀学専修を統合し、新たにメディア文化学専修を設置した。従来の人文・社会科学が主に取り扱ってきた伝統的メディアである文書資料に加えて、現代の新しいメディア、たとえば、映像やマンガ・アニメ、ブログ、SNS などを資料として取り扱う新たな方法論により、現代社会の多様な問題や現象を分析する力を身に着け、新たな時代に対応する高度の専門的知見を基礎として、メディア産業・IT 産業・教育・行政などの様々な分野で活躍するための能力を涵養することが期待される。[3.1]
- ・ 別添資料 5202-i3-7 京都大学大学院文学研究科・文学部案内 (2019 年度)【抜粋】

### <必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料  
(別添資料 5202-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
(別添資料 5202-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
(別添資料 5202-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
(別添資料 5202-i4-4)
- ・ 指標番号 5、9～10 (データ分析集)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットの行う国際連携教育プログラムの一環としてフィリピン大学における海外インターンシップを実施した。半期の講義の受講と学習支援ボランティアを条件として海外研修に参加した者のうち、文学研究科在学学生は3名（2016年度）、2名（2017年度）、2名（2019年度）であった。[4.2]
- ・ 別添資料 5202-i4-5 京都大学アジア研究教育ユニット フィリピン研修報告書（2016～2019年度）

**<必須記載項目5 履修指導、支援>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5202-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5202-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 5202-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5202-i5-4）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 2018年度より文学研究科・文学部の大学院生・学生のための「学生相談室」を開設し、臨床心理士を相談実務担当者として配置した（開室日程は毎週火曜・水曜・木曜の10-13時、14-17時）。「学生相談室」については新入生オリエンテーションで紹介する他、掲示板のチラシやHP、教務掛から学生宛に送付される一斉メールなどにより周知をはかり、2018年12月からはTwitterアカウントを開設し、学生に相談室をより身近に感じてもらえるよう努力をしている。2018年度の大学院生・学生の来室者数は19人（実数）、相談件数は69件（のべ数）、2019年度の大学院生・学生の来室者数は20人（実数）、相談件数は84件（のべ数）であった。「学生相談室」では教職員についても指導学生に関する相談に限って対応している。2018年9月には「学生相談室」の相談実務担当者が「学生の視点から見た学生支援」というテーマで教職員を対象としたFD研修会を実施し、学生支援に関わる様々な問題と課題を教職員が共有する機会となった。（参加人数74名）[5.1]
- ・ 別添資料 5202-i5-5 京都大学学生総合支援センター紀要第48輯(2018-2019)  
**【抜粋】**

## 京都大学文学研究科 教育活動の状況

- ・ 別添資料 5202-i5-6 文学研究科・文学部相談室 HP
- 文学研究科・文学部の大学院生・学生のための研究・進路・生活上の問題を解決する一助とすべく、2009年11月に設立した「先輩相談室」を継続して開設した（開室日程は毎週月曜の12-14時、水曜の14-16時、金曜の14-16時）。相談員は文学研究科の博士課程を終えた若手研究者が務め、あくまでも「先輩」の立場から相談者の研究・進路・生活上の問題に耳を傾け、必要な情報を提供するという形で運営されている。「先輩相談室」については新入生オリエンテーションで紹介する他、掲示板のチラシやHP、教務掛から学生宛に送付される一斉メールなどにより周知をはかっている。2018年度の大学院在学生の来室者数は1人（実数）、相談件数は2件（のべ数）、2019年度の大学院在学生の来室者数は12人（実数）、相談件数は12件（のべ数）であった。（2016、2017年度はデータなし）[5.1]
- ・ 別添資料 5202-i5-5 京都大学学生総合支援センター紀要第48輯(2018-2019)  
【抜粋】（再掲）
- ・ 別添資料 5202-i5-7 先輩相談室 HP

### <必須記載項目6 成績評価>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5202-i6-1）※2019年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5202-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5202-i6-3～4）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- （特になし）

### <必須記載項目7 卒業（修了）判定>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5202-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料  
（別添資料 5202-i7-3～5）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 5202-i7-6～9）

## 京都大学文学研究科 教育活動の状況

- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 5202-i7-10～12）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 5202-i7-13）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 独自に定めた修士論文評価基準に基づく毎年の論文の評価結果を専修単位で検証し、検証結果を集約したものを教授会で報告し、問題意識や改善点を共有する、というPDCAサイクルを実現している。[7.2]
- ・ 別添資料 5202-i7-9\_京都大学大学院文学研究科学位論文に係る評価基準
- 2017年10月に開設したハイデルベルク大学トランスカルチュラル・スタディーズ・センターとの国際共同学位（ジョイント・ディグリー）プログラム「京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻」において、2019年9月に最初の修士学位取得者を輩出した。学位取得者は国際共同指導を受けて英語で修士論文を執筆し、合格と認められた者である。[7.2]

## <必須記載項目8 学生の受入>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5202-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5202-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年の修士課程入学者のおよそ半数は他大学出身者であり、ここ数年は60%を超え、そのうち20名以上が外国の大学の出身者である。多様な背景を持つ学生が確保されているこの状況は、世界の多様性を認識し、将来国際的な場でも活動しようという意欲が学生に与えられる点で望ましいと考えられる。[8.1]

## <選択記載項目A 教育の国際性>

### 【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数

## 京都大学文学研究科 教育活動の状況

(別添資料 5202-iA-1)

- ・ 指標番号 3、5 (データ分析集)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 分野横断教育とグローバルな文脈をふまえた地域(日本および東南アジア)横断的関心とを連結させた研究指向の講義群を英語で提供する目的で 2015 年度に設置した英語講義群「Courses on Asian and Transcultural Studies」を 2016 年度以降毎年継続して提供している。2016 年度は 23 科目(受講者 49 名)、2017 年度は 23 科目(受講者 41 名)、2018 年度は 34 科目(受講者 67 名)、2019 年度は 37 科目(受講者 101 名)開講し、受講者数は延べ 258 名となっている(2019 年度末現在)。[A. 1]
- ・ 別添資料 5202-iA-2 文学部 Courses on Asian and Transcultural Studies シラバス(2016~2019 年度)
- 倫理教育についての大規模公開オンライン講座(MOOC)の英語版を 2016 年度以降毎年度配信している。[A. 1]
- ・ 別添資料 5202-iA-3 Kyoto University MOOCs への文学部提供科目紹介 Web ページ(2019 年度)
- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットの行う国際連携教育プログラムの一環としてフィリピン大学における海外インターンシップを実施した。半期の講義の受講と学習支援ボランティアを条件として海外研修に参加した者のうち、文学研究科在学学生は 3 名(2016 年度)、2 名(2017 年度)、2 名(2019 年度)であった。[A. 1]
- ・ 別添資料 5202-i4-5 京都大学アジア研究教育ユニット フィリピン研修報告書(2016~2019 年度) (再掲)
- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットは、多文化共学受入れプログラムとして「京都サマープログラム 2016」により、タイ、インドネシア、シンガポール、ベトナムより、学生 18 人を短期交換留学生として受け入れた。また同ユニットは、「アセアン学生のための多文化共学短期受入れ留学プログラム」により、別添資料 5202-iA-4 の通り、タイ、インドネシア、シンガポール、ベトナム、台湾より、学生 18 人(2017 年)、19 人(2018 年)、18 人(2019 年)を短期交換留学生として受け入れた。[A. 1]
- ・ 別添資料 5202-iA-4 多文化共学受入れプログラム 2016-2019

### <選択記載項目 B 地域連携による教育活動>



**【基本的な記載事項】**

(特になし)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 2019年4月に発足した京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター（CESCHI）京大文化遺産調査活用部門による高大連携プロジェクトの一環として、滋賀県立膳所高等学校の生徒向け特別授業「土の中の事件簿」を2019年9月6日に行い、考古学の学問的方法を実践的に教授した。[B.1]
  - ・ 別添資料 5202-iB-1 文学研究科修了後3年次アンケート（2016年度実施）
- 高大連携事業「学びコーディネーターによる出前授業」において、文学研究科のOD/PDや博士後期課程の大学院生が2016年度42件、2017年度21件、2018年度33件、2019年度23件の授業を提供した。[B.1]
  - ・ 別添資料 5202-iB-2 学びコーディネーターによる出前授業・オープン授業

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5202-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5202-iii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究科は、修士課程の標準修業年限×1.5年内修了率は、84-88%の高率を維持している。博士後期課程ではこの数字は低下するものの、修士・博士を合計した修了生に占める標準修業年限×1.5年での修了率は90%前後という高水準を維持している（指標 18）。休学率や留年率が高めで推移している（指標 14, 16）ものの、休学者や留年者の一定数は、留学などの学修を目的とするものである。教員免許の合格率は100%を維持している（指標 19）。[1.1] [1.2]
- ・ 別添資料 5202-iii1-1 文学研究科卒業（修了）率（2016～2019年度）

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究科修士課程修了者の37-42%が博士後期課程に進学している。その大半が研究者を目指しており、人文科学系の研究・教育の将来を担う人材の教育を目指す本研究科の教育方針にも合致する状況である。修士課程修了者の産業別就職先で、教員を含む「教育・学習支援業」と「学術研究、専門・技術サービス業」が、合わせて33%前後を占めている状況も、如上の教育方針を反映していると言える。一方で、毎年、就職者の合わせて45%程度が、情報通信業、製造業、公務員に就職していることは、本研究科の専門教育を受けた修了生が、狭義の人文科学系の枠を超えて社会的に必要とされる人材として認知されていることを物語っている（指標 24）。[2.1]
- ・ 別添資料 5202-iii2-1 文学研究科進学就職率（2106～2019年度）

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 5202-iiA-1～6)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年3月に、当該年度の大学院修了生を対象にアンケートを実施している。  
2016年度から2018年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、本研究科で学べたことに満足しているかとの問いに対して概ね80パーセント以上が「十分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。過去2年の修士修了者では、この数字は97%となっている。また、本学が基本的な理念として掲げている「自学自習」については、毎年75パーセント以上が「十分に」あるいは「ある程度」身についたと回答している。修了生が、本学および本研究科の教育理念に沿う学修成果を達成したことに満足している状況が窺われる。また、本研究科で「学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるもの」を問う質問に対する選択式の回答（複数回答可）で、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」に加えて、「専門的知識」や「専門分野の研究能力」との回答が、修士と博士後期の双方で高い割合を示していることから、本研究科のディプロマ・ポリシーに掲げた教育方針が実際に成果を上げている様子を看取できる。なお、アンケート結果については、ホームページに公開するほか、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなどPDCAサイクルの実現に努めている。[A.1]
- ・ 別添資料 5202-iiA-1\_文学研究科修士課程修了者アンケート（2016年度）
- ・ 別添資料 5202-iiA-2\_文学研究科博士後期課程修了者アンケート（2016年度）
- ・ 別添資料 5202-iiA-3\_文学研究科修士課程修了者アンケート（2017年度）
- ・ 別添資料 5202-iiA-4\_文学研究科博士後期課程修了者アンケート（2017年度）
- ・ 別添資料 5202-iiA-5\_文学研究科修士課程修了者アンケート（2018年度）
- ・ 別添資料 5202-iiA-6\_文学研究科博士後期課程修了者アンケート（2018年度）

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5202-iiB-1～4）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 毎年、卒業後3年を経過した大学院修了生を対象に、アンケートを実施している。2016年度から2019年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、本研究科で学べたことに満足しているかとの問いに対して概ね90パーセントを超える修了生が「十分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。また、本研究科での「勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質」を問う質問に対する選択式の回答（複数回答可）では、年度によってばらつきはあるものの、「一般的な教養や知識」、「外国語の能力」、「自学自習の姿勢」に加え、「専門的な知識と技術」や「専門分野の研究能力」との回答が高い割合を示しており、これらを重視する本研究科の教育方針が、修了生から高く評価されていることが窺われる。なお、アンケート結果については、ホームページに公開するほか、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなどPDCAサイクルの実現に努めている。[B.1]
- ・ 別添資料 5202-iiB-1\_文学研究科修了後3年次アンケート（2016年度実施）
- ・ 別添資料 5202-iiB-2\_文学研究科修了後3年次アンケート（2017年度実施）
- ・ 別添資料 5202-iiB-3\_文学研究科修了後3年次アンケート（2018年度実施）

**<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5202-iiC-1~4）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 毎年、文学部・文学研究科主催の在学生向けキャリアガイダンスに参加する企業・団体の担当者に面接調査を実施している。本研究科修了生の就職先の企業・団体の多くは、本学部卒業生も就職しており、学部部卒業生と研究科修了生を人事上区別していないという企業・団体が多かった。したがって、本研究科修了生についても、本学部卒業生と区別することなく、「物事の本質を見抜こうとする姿勢」を有する（2016年度）、「優秀で理解力がある」（2017年度）、「自分の世界があり、まわりにひきずられない」（2018年度）などの肯定的な評価が与えられていると考えられる。一方で、両者を区別して評価するコメントの中には、本研究科修了生は、「全体を見て調整する能力が高い」（2016年度）、「院卒の

## 京都大学文学研究科 教育成果の状況

方が基礎能力、動き方がいい」(2018年度)など、学部卒業生よりもいっそう能力が高いとする肯定的評価があった。アンケート結果は、その性質上ホームページへの公開は行っていないが、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなどPDCAサイクルの実現に努めている。[C.1]

- ・ 別添資料 5202-iiC-1\_文学部・文学研究科卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2016年度)
- ・ 別添資料 5202-iiC-2\_文学部・文学研究科卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2017年度)
- ・ 別添資料 5202-iiC-3\_文学部・文学研究科卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2018年度)
- ・ 別添資料 5202-iiC-4\_文学部・文学研究科卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2019年度)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ ■部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。